

要 望 書



仁淀ブルーが見れる砂防堰堤(仁淀川町安居溪谷)

令和3年11月

高知県防災砂防協会

(一社)全国治水砂防協会高知県支部会員
高知県防災砂防協会会員

高知市
南国市
宿毛市
香南市
奈半利町
北川村
本山町
大川村
中土佐町
梶原町
四万十町

室戸市
土佐市
土佐清水市
香美市
田野町
馬路村
大豊町
いの町
佐川町
日高村
大月町
黒潮町

安芸市
須崎市
四万十市
東洋町
安田町
芸西村
土佐町
仁淀川町
越知町
津野町
三原村

全34市町村

要 望 書

高知県は急峻な山地が県土のほとんどを占めており、集落の大半が土砂災害警戒区域に指定されていることも珍しくありません。市町村は土砂災害警戒区域において警戒避難体制を整備することが求められますが、区域を指定した後の避難所のあり方などに苦慮しています。

住んでいる家の一部が土砂災害特別警戒区域に指定される住民も多くいます。指定がされる前に県と共同で住民説明会を開催して丁寧に説明していますが、指定前後で土砂災害リスクが変わるわけでは無いことに住民は納得しつつも、地域の存続や地域活性化の先行きを危ぶみ、安全な避難所の確保や土砂災害対策施設の整備を求める声が多く出ています。

砂防関係事業を根幹として、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた国土強靱化を推進することが重要です。以上を踏まえて、次の事項が実現されるよう強く要望します。

記

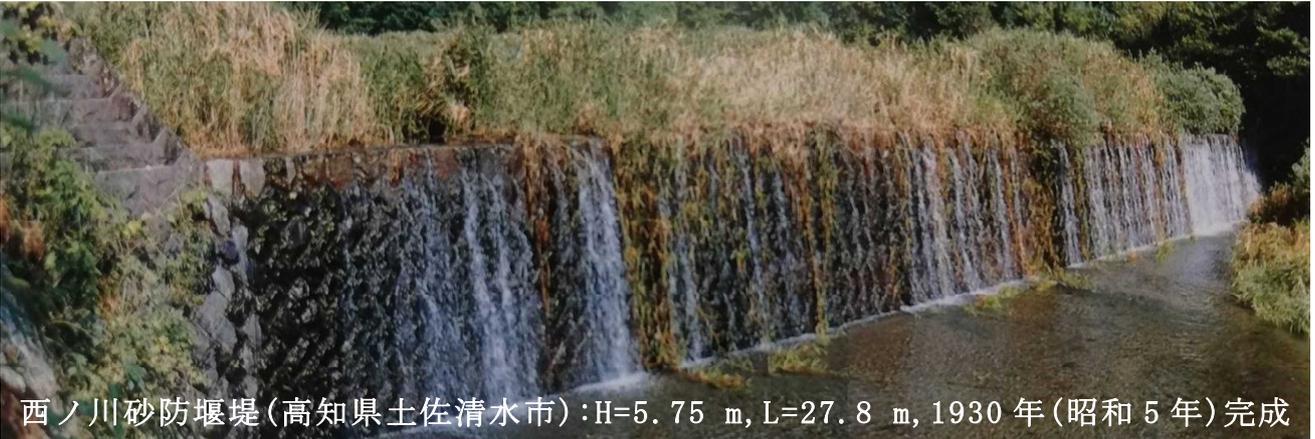
- 1 土砂災害防止施設の強力な整備推進
- 2 大規模土砂災害が想定される地域における直轄事務所を中心とした事前の備えの推進
- 3 急傾斜地崩壊対策事業の採択限度額の引き下げ
- 4 直轄での土砂災害対策による再度災害防止の促進
- 5 気候変動や南海トラフ地震に備えた防災・減災の推進

令和3年11月

高知県防災砂防協会

高知県での砂防事業のストック効果の最大化へ

〈高知県で初めて整備された砂防堰堤〉



西ノ川砂防堰堤(高知県土佐清水市):H=5.75 m, L=27.8 m, 1930年(昭和5年)完成

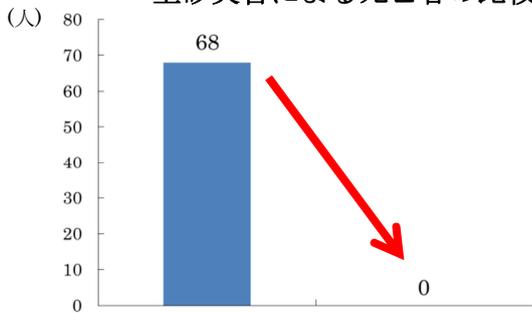
(高知県土木史抜粋)

1920年(大正9年)8月の豪雨(日雨量400mm)で、山地崩壊と溪流荒廃が著しく、土佐清水市周辺は激甚な土砂災害を被り復旧費に追われていた。このような状況下に1931年(昭和6年)9月、10月の台風による集中豪雨で、砂防堰堤のない河川は、ほとんどが土砂災害を生じたが、同堰堤下流では人家、耕地の被害軽く、砂防堰堤が一躍注目を浴びることとなった。

〈砂防関係事業の事業効果〉

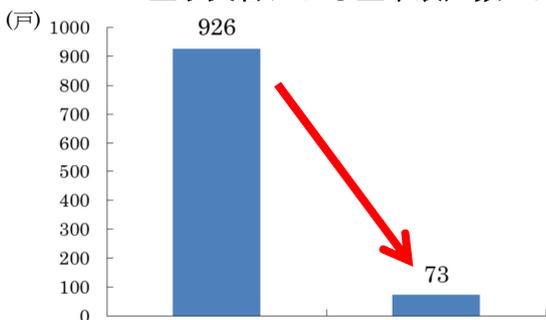
・防災・減災機能による事業効果

土砂災害による死亡者の比較



昭和50年仁淀川災害 3時間雨量235mm(伊野町) 平成30年西日本豪雨 3時間雨量263mm(宿毛)

土砂災害による全半壊戸数の比較



昭和50年仁淀川災害 3時間雨量235mm(伊野町) 平成30年西日本豪雨 3時間雨量263mm(宿毛)

・親水機能による事業効果

昭和50年仁淀川災害での安居溪谷の被害



昭和50年仁淀川災害後に砂防堰堤や親水護岸を整備



仁淀ブルーが見られる砂防堰堤として、昨年インスタグラムで紹介されたことをきっかけとして県外からの観光客が激増